

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	千葉県
-------	-----

I 学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	千葉県山武郡大網白里町立大網小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	1	13	19
児童数	74	59	58	42	45	59	2	341	

II 研究の概要

1. 研究主題

確かな学力と豊かな心を育むための指導のあり方
------------------------

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生から6年生・読書（国語）ドリルタイム（読み書き計算）補習授業（国算）上の活動が確かな学力と豊かな心の育成のために必要な基礎的な学習であると考えるから。</li> <li>・1年生から6年生・算数<br/>算数の学習内容は系統性を重視した教科であり、6ヵ年の学習に対し、個によって学力に差が生じるため。</li> </ul> |
|--|

(2) 年次ごとの計画

平成14年度
--------

- |        |   |
|--------|---|
| 平成15年度 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○テーマ <ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上をめざした教育課程のあり方の探究</li> </ul> </li> <li>○研究の見通し <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習に応じた指導方法・体制を工夫改善すれば、確かな学力がつくであろう。</li> </ul> </li> <li>○研究の内容・方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の読書において、豊かな心と確かな学力の育成のための手立てを探究する。</li> <li>・ドリルタイムと補習教室において、読み書き計算の基礎基本の徹底が図れるための手立てを探究する。</li> <li>・家庭生活の反省カードを通して、基本的な生活習慣と学力の関係を探究する。</li> <li>・算数科において児童一人一人の実態に応じたきめ細やかな指導を行い、確かな学力の向上をめざすための指導法を追求する。指導方法や指導体制、学力状況の把握、カリキュラム編成・教材開発、地域や保護者との連携等の在り方について探究する。</li> </ul> </li> </ul> |
|--------|---|

- |        |   |
|--------|---|
| 平成16年度 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○テーマ <ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら学び、考える児童の育成</li> </ul> </li> <li>○研究の見通し <ul style="list-style-type: none"> <li>・学ぶ楽しさを実感できる教科の学習を実践すれば、新たな課題に意欲的に取り組むだろう。</li> </ul> </li> <li>○研究の内容・方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導方法や指導体制、学力状況の把握、カリキュラム編成の継続的な開発、評価を生かした指導法の改善、発展・補充的な学習の教材の開発について探求する。</li> </ul> </li> </ul> |
|--------|---|

(3) 研究推進体制

校長	研究推進委員会		広報部	
教頭	教務・研究主任・研究副主任・図書主任・ 生徒指導主任・少人数指導・少人数指導・ あすなろ部主任		情報主任・視聴覚 担当・教務主任	
読書部	生徒指導部	算数部 (低・高)	補習部	
◎図書主任 4年 2年	◎生徒指導主任 3年 音楽主任 養護教諭	◎少人数指導 低学年担任 ◎少人数指導 高学年担任	◎4年学年主任 1年 2年 3年	

Ⅲ 平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- ・学力の向上の基盤となる教育活動と算数科の指導に重点をおいた。
- ・家庭生活を振り返ることにより、学校生活への関心が高まり、学習活動の意欲化につながった。
- ・算数科では、全学級に2人の指導者を配置し、学習のねらいと実態に応じた単元の指導計画、実践ができた。習熟度別の学習を単元の途中で組み込み、2～6年で平均60時間行い、効果が上がった。全校で算数好きが3割増えた。

2. 今後の課題

- ・フロンティアスクールのねらいとする「一人一人に応じたきめ細やかな指導の一層の充実」のおもに3つの視点から実践研究を一体的に行う点で、本年度は「個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善」に重点が置かれた。来年度は発展的・補足的な学習教材の開発、学力の評価を生かした指導の改善に力を入れていきたい。
- ・情報の普及の点で、3月にホームページを開設する。来年は情報を更新し、更なる普及に努めたい。

Ⅳ 学力等把握のための学校としての取組

- ・生活自己評価カードを毎日の生活を振り返らせ、学習環境を整えさせた。
- ・算数科において単元の導入時に前提・事前テストを行い、実態を把握し、少人数学習の指導に役立てた。また、学期の後半には、算数に対する思いや少人数学習の効果を調査し、来学期の指導法の改善に役立てた。

Ⅴ フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・フロンティアスクールの指定について、保護者会で説明をしたり、研究内容を学校だよりに掲載したりすることで保護者への理解を深めた。(4月・10月)
- ・生活評価カードのデータを一部抽出し、学期ごとの変容を調べ、学校便りで公開した。(1月)
- ・ホームページの開設をし、研究内容や算数科の学習指導案を公開する予定である。

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)  
 【新規校・継続校】       15年度からの新規校      14年度からの継続校

【学校規模】                      6学級以下                      7～12学級  
 13～18学級                      19～24学級  
    25学級以上

【指導体制】                       少人数指導                       T・Tによる指導  
    一部教科担任制                      その他

【研究教科】                      国語                      社会                       算数                      理科  
    生活                      音楽                      図画工作                      家庭  
    体育                      その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有                      無